



大分合同新聞
ワークシート

大分政経懇話会10月例会が16日に大分市のトキハ会館で、17日に臼杵市の臼杵喜楽庵でそれぞれあった。ジャーナリスト、メディアコラボ（東京都）代表の古田大輔氏が「ファクトチェックとリテラシー 偽情報に惑わされないために」と題して講演した。要旨は次の通り。

ジャーナリスト
メディアコラボ代表
古田大輔氏



講演する古田大輔氏

「ファクトチェックとリテラシー 偽情報に惑わされないために」

「フェイク」星の数
「フェイクニュース」は星の数ほどある。ほぼ全ての人が何らかの間違った情報を見ているが気付いていない。定義は、意図的ではないが間違っている誤情報、意図的につくられ、

相手をだましたり操作しようとしたりする偽情報、悪意を持ちばらまかれる情報だ。
偽・誤情報をつくる人の動機は、間違った情報を意図的に流して、政治的、経済的な利益を得ようとする故意犯や、本人は正しいと

正しい根拠自分で探せ

思っている確信犯、うそをついて楽しむ愉快犯がいる。間違った情報が一番拡散する場所はSNS（交流サイト）ではなく口コミ。善意から間違った情報を伝えたり、怒り・不安を感じて拡散したりする正義感の場合もある。
偽・誤情報を信じてしまう理由の一つがバイアス（偏り、先入観）だ。自分の経験などに基づいて、無意識に非合理的な考えをしてしまう。脳が自分を甘やかして守ろうとする「認知

バイアス」。自分の価値観に近いのは良い情報と評価する「自己奉仕バイアス」。自分の考えを裏付ける情報を正しいと思う「確認バイアス」がある。
ユーチューブの画面を開けたら、自分の好みに合った動画が並ぶ。これはアルゴリズム（計算手法）によるものだ。チャンネル登録や視聴回数・時間などの指標を組み合わせ、一人一人に最適化してくれる。

効果的な一方で、副作用がある。アルゴリズムが膜となって腰を通ったものしか見なくなる。自分で情報を選んでいるつもりが、既にフィルターがかかっている。似たような人が集まり、他の意見が聞こえなくなってしまうエコーチェンバー現象もある。

批判的思考で防御

「私の直感は正しくて、同じ真実をたどり着いた仲間がいる」と感じ、どんなに偏ってしまう。これが現代社会で起こっている。人はそれぞれ考えが違う。分断があること自体は、何も問題がない。偏りが強化され、相手を攻撃し始めることが問題だ。
クリティカルシンキング（批判的・吟味的思考）が防御策になる。なぜ正しいのか、どこに根拠があるのか。自分の価値観に近い情報を感じて思っているのか。自分自身の言葉で考えることだ。
2024年の東京都知事選、兵庫県知事選などではソーシャルメディアが選挙に大きく影響した。選挙・政治関係の偽情報が、今まで以上に拡散するようになった。民主主義であり、好きな政党に投票すれば良いのだが、問題は間違った情報に基づいて誤解して投票することだ。情報の発信者は誰なのか。情報を知り得る立場にいる人なのか。根拠は何なのか。関連情報はあるか。個人での対策として確認をしてほしい。（磯崎恵）

10月例会のお知らせ

▼別府会場 27日正午 ホテルサンパリアネックス
NO法人となりのかいこ代表理事 川内潤氏
「親不孝介護」で離職を防ぐ！経営者・自治体が取り組むべきことは？」

大分政経懇話会にご加入問い合わせは大分市府内町3の9の15 大分政経懇話会事務局（097・5338・0646）。

大分合同新聞 2025年10月23日（木）朝刊22面



〔問①〕記事で紹介されている「フェイクニュース」の定義を3つ挙げてください。

〔問②〕偽・誤情報を信じる理由の一つとして、自分の経験などに基づき、無意識に非合理的な考えをしてしまう「バイアス（偏り、先入観）」があります。「自分の考えを裏付ける情報を正しいと思ってしまうこと」を表す言葉を記事から抜き出しましょう。

〔問③〕講演した古田さんは「私の直感は正しくて、同じ真実にたどり着いた仲間がいる」と感じ、どんどん偏っていくと、どのようなことが問題になると指摘していますか？

〔問④〕古田さんは「クリティカル・シンキング」によって、なぜ正しいと思ったのか、どこに根拠があるのかなどを自分の言葉で考える大切さを説いています。この記事を読んで、皆さんが思ったこと、感じたことを書きましょう。